

知財会計・経営分科会セッション

◆大阪発のものづくりが障がい者コミュニケーションのイノベーションを起こす◆

【講演者】

講演／パネリスト

越中 香緒里 (チーム・ツクリカ代表／アートディレクター
／イベント・プランナー)

久山 敦 (咲くやこの花館(大阪市施設)館長)

松尾 光晴 (パナソニック エイジフリー (株) ケアプロダクツ事業部
ロボット・リハビリプロジェクト 担当部長)

50 音順

モデレーター

川上 正隆 (青山学院大学大学院法学研究科客員教授)

【内容】

本年度の学術研究発表会はサブテーマを「地域大阪から発信するイノベーション戦略」とし、趣旨には「ものづくりやサービス業、コンテンツ産業を含め、たゆむことのないイノベーションや新たな価値創造の実現」と記されている。

その趣旨に沿い、当分科会では、従前の学術研究発表会の一般発表等ではあまり取り上げられていない、「障がい者」を基軸とした議論を行う予定である。なぜならば、ここ大阪では、障がい者のコミュニケーションのための活発な「ものづくり」の事例が散見するからである。

具体的には、

☆空間コミュニケーション

公共の場という空間デザインにより、障がい者にとって安心・安全、そして訪問しやすい場という「ものづくり」

☆意思コミュニケーション

従前は意思疎通が困難とされていた重度障がい者との意思伝達を可能としたツールという「ものづくり」

を実践している講師による各々の背景や内容、問題点等の講演およびパネルディスカッションを通して、「大阪発のものづくりが障がい者コミュニケーションのイノベーションを起こす」について会場を交えた議論を深めたい。

知財会計・経営分科会セッション

◆大阪発のものづくりが障がい者コミュニケーションのイノベーションを起こす◆

【略歴】

越中 香緒里 (チーム・ツクリカ代表)

「好きなものにかこまれて過ごす心地よさ」を追求する空間プロデューサー。

- 1995年よりテーブル・コーディネート/フラワー・デザインを学ぶ。ロンドンでディプロマ取得。コンペで〈ホテル・ニューオータニ賞〉受賞。
- 2003年に“TEAM TUKURIKA (チーム・ツクリカ)”を立ち上げ、ギャラリーやレストラン、ホテル等の空間プロデュースにかかわる。
- 2013年より、大阪の植物園「咲くやこの花館」の空間演出としてカフェを立ち上げる。以後、企画展におけるイベントや空間演出等、年間で手がける。
- 2015年より、鉄道駅や複合施設の屋上緑化事業等に携わる。大阪の「あべのハルカス」や「ルクア」、吹田の「江坂公園」、京都市「国際交流会館」等、利用客に空間を楽しんでもらう企画を行う。主として関西圏で“ものづくり”に取り組んでいる。

久山 敦 (咲くやこの花館(大阪市施設)館長)

- (一社) フラワーソサイエティー理事
- 1970~82年:(財)国際日本研究所に勤務、1972~73年:英国王立キュー植物園留学
1973~82年:妙高高原にて山野草試作、1980~82年:那須高原南ヶ丘牧場にてロックガーデン築造~植栽に協力、1982~93年:兵庫県立 淡路ファームパークの大温室、ロックガーデン、バードケージを設計から手がけユーカリ栽培からコアラ誘致までを行う
- 咲くやこの花館の高山植物室、ロックガーデンの設計、栽培指導
- 1993年より「咲くやこの花館」に勤務し、2007年より館長
- 著書『ヨーロッパ花の旅』(創文社)、共著『四季の山野草栽培』(NHK出版)、
『花図鑑 球根+宿根草』(草土出版)、『ヒマラヤの青いケシ』(東方出版)他

松尾 光晴 (パナソニック エイジフリー (株) ケアプロダクツ事業部

ロボット・リハビリプロジェクト 担当部長)

- 1992年 松下電器産業株式会社(現パナソニック)入社
- 2003年 社内ベンチャー制度を活用、ファンコム株式会社を設立。代表取締役就任、障害者向け福祉機器の開発、販売に従事
重度障害者意思伝達装置「レッツ・チャット」、高齢者、障害者向けテレビリモコン「レッツ・リモコン」等を発売、
- 2010年 事業を本社内へ移管、ヘルスケア社を経て、2013年より現職。
- 本分科会では、昨年11月に東京で講演を行った。

川上 正隆 (青山学院大学大学院法学研究科客員教授)

- 青山学院大学大学院法学研究科客員教授にて知的財産法の講義を担当、また、名古屋商科大学で情報法の講義を担当している。知的財産管理技能士試験委員。